

定例活動／9月24日(土)

「森の解説板づくり」

真弓 浩二

「相生山緑地オアシスの森」がオープンして、早7年半もの歳月が過ぎました。名古屋市による当初整備や私たち森くらぶの活動等によって、それまで一部の人にしか知られていなかった存在から、今では数多くの市民の皆さんに親しまれるようになってきました。活動中の私たちに対しても、散策に訪れた多くの方々から「ご苦労様!」「気持ちのいい森になりましたね」と温かい言葉がけがあり、疲れが癒される思いがします。

一方、樹木や竹の除伐、竹炭焼きなどの活動に対して疑問の声も聞かれました。森くらぶとしてはこれらの声に対して、森づくり活動の目的や意義、さらにこれらの活動を名古屋市と協働で進めていることを説明する必要があると、2002年12月、林内5箇所に解説板を設置しました。この解説板もその

後の歳月で老朽化してきておりリニューアルを図る必要がありました。

今回の活動では、天白土木事務所から杭の支給を受け、会員の野浪さんには材料・工具一式を調達・準備してもらい、頑丈でカッコいい解説板が出来上がりました。



▲解説板が見やすいよう斜めに一定の角度で設置するため、杭に加工を施す。

精度の高い丁寧な製作・施工で思いのほか時間がかかってしまい、この日の成果としては「野辺の小径ルート」



沿いの「トンボ池」「竹炭焼き窯」「ピートルアパート」の3箇所となりました。今後「アカマツ林再生」「ツツジの園づくり」「竹林管理」についても順次設置していきたいと考えています。

オアシスの森にお越しの際は、ぜひご覧ください。

▶丁寧な仕上げを求め、打ちも慎重に行われた。杭



定例活動／11月26日(土)

「山根口付近の竹林管理」

村田 英二

11月の定例活動は山根口付近の竹林管理を行いました。午前中は約15名、午後は少し減りましたが、多くの会員が参加しました。

山根口付近の竹林はこれまで随分手入れをしていましたが、最近は少し荒れてきた様子だったので今回の管理でとても綺麗になったと思います。

作業は、恒例の伊藤晶子さん指導のストレッチ体操を行った後に込み入った竹の間伐を行いました。



▲竹炭材にするため、切り出した竹を炭焼き窯まで運び出す。

伐採した竹は解体して決められた場所に置きました。

会員の方々は久しぶりの竹切りを楽しんでいる様子でした。もちろん私も楽しかったです。



▲竹炭材として一定寸法に切りそろえ、メープル材を使って積み上げる。

一方、今年度の炭焼きの準備として伐採した竹を使って、竹炭の材料づくりも行いました。竹割り器具が5月の火事の際に小屋の中で火を浴びたことから、使えるかどうか心配しましたが



使用上の問題はなく安心しました。この材を使ってこれからも炭を作りたいと思います。

汗をかいた後、みんなで食べる昼食は大変に楽しかったです。私は中島さんからビール、森さんからおつまみの差し入れにお昼休みは極楽気分でしたが、午後の作業がけっこう大変でした。

作業の最後に火事の燃えがらのスレート屋根の破片等をビニール袋に入れて片付けをして、旧小屋周辺は見違えるようにきれいになりました。

竹林管理は森くらぶの原点です。人の輪をさらに広げて、楽しく活動を続けていければ良いと思います。